

■ 新たな長居障がい者スポーツセンターの機能のモデル案

	諸室	モデル案	
		新たな長居障がい者スポーツセンター	
		想定内容	主な変更点
既存機能 (スポーツ)	アリーナ	バスケットボールコート2面 観覧エリア+室内ランニングコース	コート1→2面 室内ランニングコースを新設
	プール	25m×8コース+浅型プール 室外観覧エリア	6→8コース、屋外プールを廃止し、室内浅型プールを新設 室外観覧エリアへ変更
	トレーニング室	各種トレーニング機器	現状規模よりやや拡充、器具の充実
	卓球室	卓球4台、STT2室	常設卓球台は減少し、アリーナ・多目的室で対応 サウンドテーブルテニスの個室化
	ボウリング室	4レーン	現状維持
	サブアリーナ	エアートランポリン等	広さは舞洲程度とし、減少分はアリーナ・多目的室で対応
	プレイルーム	リラックスルーム、柔道対応、おもちゃ設置	現状維持
既存機能 (会議室等)	会議室	定員120名（3分割可能）程度	会議室・和室は現状維持とし、研修室の減は多目的室で対応
	和室	10畳×2間程度	
	研修室	なし	
	ラウンジ	フリースペース	利用者間交流、軽食の持ち込みによる飲食スペースは現状維持
	レストラン	なし	
	宿泊室	なし	導入しない
追加機能	多目的室	新設	小人数スポーツ、VR・ARのデジタル技術の活用など機能性の高い多目的室を新設
	カームダウンエリア	新設	気持ちを落ち着かせることができるスペースを新設
	民間活用等	新設	民間ノウハウによる物販・サービス、障がいのある人・ない人との交流、障がい者スポーツの体験等のスペースを新設
	コミュニティルーム	新設	利用者間交流や会議、研修等に活用できるスペースを新設
	複合化施設	新設	効率的な施設整備のため複合化施設のスペースを確保
共用・管理機能	共用部	ロビー・通路・更衣室・トイレ	介助がしやすい更衣室・トイレ、その他様々な障がいへの配慮の充実
	管理部分	管理事務室・機械設備室	現状維持

(参考) 現状	
長居障がい者スポーツセンター	舞洲障がい者スポーツセンター
内容	内容
バスケットボールコート1面	バスケットボールコート2面
観覧エリア	観覧エリア+室内ランニングコース
25m×6コース	25m×8コース+浅型プール
室内観覧エリア	室外観覧エリア
各種トレーニング機器	各種トレーニング機器
卓球6台、STT2台	卓球3台、STT2室
4レーン	4レーン
エアートランポリン等 (バレーボールコート1面)	エアートランポリン等 (長居より100㎡程度狭い)
リラックスルーム、柔道対応	リラックスルーム、おもちゃ設置
定員120名（3分割可能）	定員40名（2分割可能）
10畳×2間	大広間27畳
定員20名	定員100名（3分割可能）
フリースペース	フリースペース
上記フリースペース (レストランは廃止済)	レストラン116席
—	27室
—	—
—	—
—	—
—	—
ロビー・通路・更衣室・トイレ	ロビー・通路・更衣室・トイレ
管理事務室・機械設備室	管理事務室・機械設備室

屋外施設	多目的広場	多目的広場	多目的広場とアーチェリー場は場所を分け アーチェリーは50mへの対応
	アーチェリー場	最大50m	
	屋外プール	なし	屋内の浅型プールで対応するため廃止
	駐車場	車いす利用者用7台、一般用63台	車いす利用者用の台数を増加、一般用は1台当たりの面積増、 通路への雨除け庇の設置

屋外運動場	多目的広場
上記屋外運動場を含む（最大30m）	最大50m
7m四方（夏期のみ）	なし
車いす利用者用1台、一般用63台	車いす利用者用34台、一般用75台

【注】本資料は意見聴取を目的として、概略を示したモデル案であり、導入の有無や規模等を決定したものではありません。また、各諸室に必要な設備・器具等についても今後検討します。